

ティを保った上で連携すること（ポータルレスとアイデンティティ）であると考えます。我が国は超高齢社会に突入しており、熊本県においても二〇四五年には人口の二〇%以上が後期高齢者になると推定されています。このような社会状況を鑑み、生命科学研究部では「健康長寿研究」を連携の一つのキーワードとしています。次年度からの第四期中期目標・計画の達成に向けて、最先端の基礎研究を推進すると共にその成果の社会実装に取り組んでいきたいと思えます。

医学部・大学院教育における最も重要な課題は、良質な教育カリキュラムの実施による次世代の人材育成です。大学院博士課程では、大学フェローシップ創設事業である「S・H I G O プロフェッショナル養成フェローシッププログラム」を新たに開始しました。本プログラムはH I G Oプログラムの後継事業として、大学院生に奨学金を供与すると共に、優秀な若手研究者に対して卒業後に「育成功教」という新たなキャリアパスを提示するものです。C O V I D - 19感染症などのため大学院進学を躊躇する学生に対して、経済的にサポートすることで安心して研究に専念できる環境を提供できるものと期待しています。世界をリードする研究活動を展開し、次世代を担う人材を育成するという研究部・医学部の使命

達成に向かって努力していく所存です。肥後医育振興会におかれましては、引き続きご支援の程、賜りますようお願い申し上げます。

熊本の医療を支える看護職の育成

公益社団法人熊本県看護協会 会長 本 尚 美



公益財団法人
肥後医育振興会
におかれまして
は、熊本の医療
を支える医学教

育や研究を助成し、地域医療の向上と住民の健康増進を図る目的で設立され、以来様々な事業活動により、熊本の医療に多大な貢献をしておりますこと、深く敬意を申し上げます。

令和二年六月より公益社団法人熊本県看護協会の会長に就任いたしました。どうぞよろしくお願いたします。

日本は少子超高齢社会に突入し、様々な対策が必要となってきています。その一つとして国が進めている地域包括ケアシステムの構築は、いまや高齢者だけでなく、病気を抱えながら働く人や障害児・者など何らかの医療的ケアが必要な人たちを含む「全世代型」となっています。看護職が働く場も対象も多様になり、医療と生活の質の視点をもつ看護職は、担う役割がますます

宜しくお願い致します。最後にになりましたが、肥後医育振興会の益々のご発展を祈念しております。

重要となってまいりました。日本看護協会では、病院から在宅医療までの一連のサービスを切れ目なく提供するために、地域で療養生活を送る人々にも視点を置き、どのような健康状態でもその人らしく暮らしていける社会をめざして、「いのち・暮らし・尊厳をまもり支える看護」を看護の将来ビジョンとして表明しています。

期待される役割が果たせる看護職を育てるために、看護基礎教育では、地域まで広げた教育が必要となり、令和四年度の入学生から看護師養成のカリキュラムが変更となります。現職看護師に対しては、医療施設や地域でより質の高い看護を提供するために、熊本県看護協会でも種々の研修を開催しています。また、看護の専門性の向上とタスクシフトの両面から、看護師の特定行為研修制度が開始され、熊本では五つの施設が教育機関として研修を実施し、現在四十五人の修了者が活動しています。さらに、熊本地震や豪雨

災害では、看護協会が研修を受け登録した災害支援ナースが被災地での支援を行いました。現在のコロナ禍では、日本看護協会の認定を受けた感染管理認定看護師が感染拡大防止のために専門性を発揮して活動しています。自然災害や新興感染症など危機管理のために専門性の高い看護職を育てていく必要もあります。

一方、少子化の影響は、看護職を志す人たちをどう確保していくかも大きな課題となっています。看護職員確保対策では、「新規養成」「復職支援」「定着促進」を三本柱として取り組みを進めています。新規養成では、将来の職業として看護職を選んでもらうために、高校生を対象にした『一日看護体験・看護学生体験』の開催や中学校・高校への出前授業などを行っています。また、復職支援では、看護職の資格を持ちながら就業していない看護職を対象に技術研修会の開催やハローワーク・ナーセンターで就業の相談を受けています。今後も熊本で働く看護職が地域の中心で他の医療従事者の方々と連携しながら、看護の専門性を発揮し県民の健康増進のために活躍できますよう、引き続きご支援のほどよろしくお願いたします。

末筆になりましたが、肥後医育振興会のみましますご発展を祈念申し上げます。